

平成26年度 秋田県軟式野球連盟 「監督会議」について

【目的】

監督会議は大会の抽選だけではなく、以下のことを目的とする。

- 1) 円滑な大会運営を目指し、各チーム、事務局、支部、審判、関係者等の共通認識を図る。
- 2) 規則、ルール、その他特別規程等に対する周知とその徹底を図る。
- 3) 開催地に関する情報交換を行い、チーム間の友好、親善を図る。

監督会議の出席者はチームの選手・コーチ等、関係者の全ての代表であり、会議で伝達された事項は、関係者全員に周知する義務があります。

【大会の実施について】

- ・雨天中止の場合は第1試合開始2時間前に決定する。本部への問い合わせはチームからすること。

【受付について】

- ・会場に到着次第、大会本部にて受付を済ませること。（プログラム、メンバー表等の受領）

【開会式について】

- 1) ユニフォーム並びにスパイクを着用すること。但し、当日の天候や球場の芝保護のためアップシューズも認める場合があるので、当日に本部に確認すること。
- 2) 10人以上参加しなければならない。人数不足の場合は処分の対象となる。（県大会では即時、その日のゲームは没収となるので、十分留意すること）

【メンバー表の提出について】

- 1) メンバー表には、登録されている（参加申し込みしている方）全員を記入すること。（6枚複写のためボールペン等で強く記入すること）
- 2) メンバー表は監督または主将が大会本部へ持参の上、攻守を決定する。
※攻守の決定は、第1試合は試合開始30分前に、第2試合以降は前の試合の5回終了時（少年、学童は4回終了時）に行う。開会式を行う場合の第1試合は開会式前（20～30分前）に実施するので留意すること。なお、メンバー表の本部への提出は、メンバー表への記入ができ次第、上記に関係なく本部へ提出してもかまわない。（推奨する）

【サングラスの使用許可について】

- ・サングラスの着用は、天候状態により支障が出る場合に限り、メンバー表提出時に大会本部に申し出て承認を得ること。但し、ミラーレンズ（反射式）の使用及び帽子のひさし等への着用は禁ずる。

【ブルペンの使用について】

- ・次の試合のバッテリーは球場内のブルペンを勝手に使用することはできない。ピッチングをする場合、本部に確認すること。

【シートノックについて】

- 1) シートノックは5分間。（状況によっては行わない場合もある）
- 2) 捕手は、プロテクター、レガーズ、ヘルメット、ファウルカップを着用のこと。
- 3) ノッカーは選手と同一のユニフォーム、スパイクを着用のこと。
少年部、学童部は、シートノック時の補助員はヘルメットを着用すること。また、補助員としてコーチ（28，29番）を認める。

【その他、競技運営に関する連盟取り決め事項】

- 1) プログラム表の試合開始時間は予定時間であり、早まることもあるため、余裕をもった対応をすること。
- 2) ユニフォームの着こなしは統一すること。（特にパンツのはき方）
- 3) ベンチ内の携帯電話等使用禁止。（タブレット端末、パソコン機器類を含む）

【試合中の禁止事項】

- 1) 競技場内（ベンチ含む）では、喫煙およびガム等を禁止する。
- 2) ベンチ及びバックネット前でのシートノック、トス、バント練習は禁止する。

【試合のスピード化に関する事項】

- 1) 攻守交代は全力疾走、先頭打者、コーチャーはミーティングに参加せず、速やかに所定の位置に就くこと。
- 2) ボール廻しはイニングの最初のみとする。
- 3) 投手は速やかに投手板に着き、捕手からのサインを受け、投ずる。また、捕手も速やかに返球し、サインを送ること。
- 4) 次打者は速やかにバッターサークルに入り、投球時は低い姿勢で待機のこと。なお、マスコットバットは持ち込んでも良いが、プレイの状況に注意し、適切な処置をする。
- 5) 打者は、バッターボックス内でベンチからのサインを見ること。
- 6) 頭部へのデットボールの場合は安全を期して、コーティシーランナーとする。
- 7) 守備につく場合、捕手の用具装備の協力を。（ベンチ前で装着のこと）
- 8) 次の試合のチームは、前の試合終了のあいさつをしている間にグラウンドに入り、道具をベンチ前外野側に置き、キャッチボール等行う。
- 9) 1試合（9回戦）の競技時間は90分を目標とする。
- 10) ダブルヘッダーについて、1日2試合まで行うことができる。なお、連続して行う場合は、試合終了30分後を目安として開始する。
- 11) 人命等に関わるような突発事故の際のタイムについては、審判の判断によりタイムを宣告する。

1つ1つの積み重ねが、大きな時間のロスとなるため、チーム全員でスピーディーな試合運びに協力すること。

【競技に関する連盟特別規則】

1) 正式試合

- ・「一般」：9回戦とする。（暗黒、降雨等により試合続行ができない場合、7回を終了していればゲームは成立する。）
※国民体育大会は別途具体時の監督会議で説明する。
- ・「マスターズ／壮年」：7回戦とし、指名打者制を採用する。
- ・「少年部／学童部」：7回戦とする。（暗黒、降雨等により試合続行ができない場合、5回を終了していればゲームは成立する。）ただし、健康を考慮し、5回終了後、2時間30分を経過した場合は新しいイニングに入らない。
- ・暗黒、降雨等により試合の打ち切り（試合の中止）を宣せられたような場合は、均等回の得点を以て勝敗を決する。
- ・点差によるコールドゲームは、「一般」の全ての大会に適用する。（7回以降7点差）

2) 延長戦

- ・「一般」：9回を終了して同点の場合、
ア) 延長戦の回数は、12回までとする。（但し、国民体育大会、天皇杯は除く）
イ) 全ての大会において、試合開始後、3時間30分を経過した場合は、新しい延長イニングに入らない。
ウ) 上記イニングを終了しても同点の時は、引き続き特別延長戦を行う。（特別延長戦は従来と同様）
- ・「少年部／学童部」：7回を終了して同点の場合は、引き続き特別延長戦を行い、9回を終了しても決着がつかないときは、抽選で勝敗を決定する。
決勝戦の場合は抽選を行わず、両チームを優勝とする。

3) 少年部／学童部の投球制限等

- ・障害防止のため、1日7イニングまでとする。ただし特別延長戦に限り2イニングまで認める。なおその場合は、特別延長戦に入る直前のイニングに登板していた投手のみとする。また、少年部・学童部とも1日2試合を限度とする。

【監督、コーチが投手のところへ行く回数制限及びタイムの制限について】

- ・必携の**26～27ページ**（今までと若干変更になっている）
26頁十三の1及び2の昨年までとの違い
※昨年までの1，2，3を削除。新に1，2，の文言を修正。
※守備側のタイムの回数制限は部分削除と**3回以内**とする修正と追加。
27頁十五 **新規に攻撃側にもタイム制限**ができた。

【注意事項】

- ・3塁への偽投はボークとなる。（偽投が許されるのは2塁のみとなる）

上記について、チーム全員に周知をお願いします。